

○用語集

A～Z	
ADSL : Asymmetric Digital Subscriber Line	非対称デジタル加入者線。一般のアナログ電話回線を使用する、上りと下りの回線速度が非対称な高速デジタル有線通信技術。
CIO : Chief Information Officer	情報化統括責任者。ICT を導入して業務の改革や情報システムの分析・評価・最適化計画を策定する責任者で、各部署間の情報の共有化など、企業内の共同歩調を担当する。
CIO 補佐官	業務の改革や情報システムの分析・評価・最適化計画を策定するにあたり、CIO 及び各所管部門長に支援・助言を行う。業務分析手法、情報システム技術及び情報セキュリティに関する専門的な知識・経験を有した外部の専門家が任命される。
FTTH : Fiber To The Home	伝送路として光ファイバを各家庭宅に引き込んだ、アクセス系光通信の網構成方式。又はこれによる家庭向けデータ通信サービスで、局設備から各加入者宅までを光通信の伝送システムを構築して、超高速（一般に 100Mbps 以上）の常時接続サービスを提供する。
IP 網 : Internet Protocol Network	パケットと呼ばれるデータ通信の通信単位の一つをやりとりする通信手順を IP といい、IP 技術により構築したネットワークを IP 網という。インターネット上でのパケットの伝送制御手順を TCP (Transmission Control Protocol) といい、両者を組み合わせた TCP/IP が近年のネットワークの通信方法の事実上の標準となっている。
ISDN : Integrated Services Digital Network	総合デジタル通信網サービス。交換機・中継回線・加入者線まで全てデジタル化された公衆交換電話網。パケット通信・回線交換データ通信にも利用できる。
IT 戦略本部（高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部）	我が国における高度情報通信ネットワーク社会の形成を目的とした「高度情報通信ネットワーク社会形成基本法（IT 基本法）」の 2001 年 1 月施行に基づいて内閣に設置され、内閣総理大臣を本部長として、全閣僚・民間有識者により構成される。我が国の IT 戦略として 2001 年「e-Japan 戦略」・2003 年 7 月「e-Japan 戦略 II」・2006 年 1 月「IT 新改革戦略」を策定している。
MCA (Multi Channel Access) 方式	多数の無線局が複数の周波数チャンネルを共用する無線通信方式で、制御局（又は各無線局）が空きチャンネルを検知して使用するので、専用的に周波数を使用する従来方式に比べ周波数の利用効率が高い。
RT (Remote Terminal) 局	通常の電話局を一般収容局と称するのに対して、回線数が少ないエリアにおいて遠隔多重加入者線装置 (RT) を収容する電話局を RT 局という。一般には機器類のみを収容した無人の大規模な筐体で、ボックス局とも称される。
SI (System Integration) ベンダー	顧客の業務内容を分析し、問題に合わせた情報システムの企画、構築、運用などの業務を一括して請け負う業務を SI といい、システムの企画・立案からプログラムの開発、必要なハードウェア・ソフトウェアの選定・導入、完成したシステムの保守・管理までを総合的に行なう業者を SI ベンダーという。
ア行	
アドレス	ネットワーク上ではシステム個々の識別子のことをいい、インターネット上では IP アドレスと称される。電子メールの場合はその受発信者を識別する宛先として利用される。
アプリケーション(アプリ) : Application Software	特定の目的を果たすための高度な機能を統合的に提供する、各利用者が共通して使用する各種プログラム/ソフトウェア。

岩手県電子申請ポータル (サイト)	岩手県が運営する電子申請専用サイトで、かつて岩手県又は市町村に対して窓口及び郵送で行っていた申請や届出の手続を、インターネットを利用して行うことができるポータルサイト。ポータルとは「玄関」を意味し、インターネットを利用して、ワンストップで自宅や職場等のパソコンから各種申請や届出の手続ができるほか、送信した申請・届出等の処理の状況を確認できる。
インターネット : The Internet	ネットワークの定義としては IP 技術を利用して相互接続されたコンピュータネットワークを指すが、一般的には近年世界的に拡大している国際的に相互接続されている極めて大規模なネットワークの呼称。様々な情報が閲覧できるウェブ (World Wide Web。単に Web やウェブページ、ホームページとも称される) は、インターネット上の一機能であり、両者は混同して使われる場合がある。
ウェブ (Web) カメラ	動画カメラによる現地のリアルタイムな映像 (ライブ映像) を、ネットワーク (一般にはインターネット) を通じてパソコンや携帯電話で見ることができるシステム。またはそのカメラそのもの。
エントランス回線	利用者側の端局 (基地局等) と事業者側のネットワークを接続する回線。
オンデマンド (On Demand) 放送	オンデマンドとは利用者の要求があった時にサービスを提供する方式をいい、一般の放送はオンデマンドでないが、オンデマンド放送は蓄積された放送番組をストリーミング技術により通信回線を介して (インターネット放送等) によって利用者がいつでも好きな時に視聴することができる放送形式をいう。
<b>カ行</b>	
ギャップファイラー : Gap Filler	ビル陰・山間部などの電波が到達しにくい場所・地域の受信特性を改善するための簡易な送信装置。地上デジタルテレビ放送の場合は放送法上も「受信障害対策中継放送を行う放送局 (50mW 以下)」として、放送事業者以外の者 (市町村、受信障害解消を図るための団体等) が開設できる放送中継局と規定され、無線従事者の選任も必要となる。
携帯電話不感地帯	携帯電話は 800MHz~2.5GHz 帯と高い周波数帯を使用するため、基地局周辺 3km 前後がサービスエリアとなり、近傍に基地局がない場合はサービスを利用することができない不感地帯となり、2007 年 3 月末現在で約 42 万人 (人口比約 0.3%) が不感地帯にある。(総務省 デジタル・ディバイド解消戦略会議 資料)
ケーブルテレビ : Cable television (CATV)	ケーブル (同軸ケーブルや光ケーブルなど) によるテレビジョン放送で、放送局によってはラジオ放送も行われ、近年はインターネット接続サービスや IP 電話サービスなども行われている。
<b>サ行</b>	
在宅医療	疾患があり定期的な通院が必要な状態であるにも関わらず、何らかの事情でこれが困難な患者に対し、医師などが患者宅に定期的な訪問を行い医療を行うこと。
サーバ : Server	コンピュータネットワークにおいて、サービスの提供を受けるクライアントに対してサービスを提供するコンピュータシステムのこと。多数の利用者が同一の情報を利用する場合、その情報を中心的に蓄積するのがサーバであり、利用者が必要に応じてサーバに問い合わせる情報を得るようにしている。
サブシステム : Sub System	それ自身がシステムでありながら同時に他のシステムの一部でもあるようなもの。情報システムの場合は、システム全体が目標とする機能を実現するため、そのシステムの一部を構成する下位層のシステムをさす。

システム（情報システム） ： System	相互に影響を及ぼしあう要素から構成される、まとまりや仕組みの全体。一般性の高い概念であるため、文脈に応じて系、体系、制度、方式、機構、組織といった多様な言葉に該当する。情報分野においては情報システムとも称され、何らかの入力に対して出力を行う仕組みや装置のことをいい、論理的な仕組み・構造なども含まれる。
情報ハイウェイ	国・県などが政策的観点から構築・運営する光ファイバ等による超高速情報通信網をいい、電気通信事業者が整備する事業用通信網とは区別される。（実際の整備には事業用通信網を借り受ける場合もある。）
情報リテラシー ： Information Literacy	情報を自己の目的に適合するように使用できる能力のこと。
<b>タ行</b>	
地域イントラネット（地域公共ネットワーク）	インターネット標準の技術により構築された企業内ネットワークをイントラネット（Intranet）と呼び、この手法により地域の教育、行政、福祉、医療、防災などのサービスの高度化を図るため、学校、図書館、公民館、市役所などの公共施設を高速・超高速で接続する公共目的のネットワークを指す。
地上デジタル（テレビ）放送	現行のアナログ方式の地上波テレビジョン放送を2011年7月までにデジタル方式に置き換えるもの。2003年に3大都市圏で開始され、2006年12月に全都道府県庁所在地・主要都市に拡大し、2010年までに全国ほぼ全地域で放送される計画。UHF 13～52chを使用するため、VHF 1～12chとUHF 53～62chは新たな用途に使用される予定。
デジタル・ディバイド ： Digital Divide	パソコンやインターネットなどの情報通信技術（ICT）を利用できる者と利用できない者の間に生じる格差。 都市部とそれ以外との間での情報通信環境の格差を指すこともある。
テレビ電話	従来の電話にリアルタイムの映像情報が付加されたもので、ビデオカメラとビデオモニター画面を組み込んだ電話機により相手の顔を見ながら会話することができるシステム。
テレビ会議	通信回線を利用して遠隔地にいる相手と音声・映像をやり取りする会議形式。
テレビ共同受信施設	山間地域等の地形に起因する場合やビル陰・反射等の都市受信障害、送電線・航空機等によるテレビの難視聴解消の対策として、受信条件の良い地点に設置したアンテナで受信したテレビ電波を各加入者のテレビに同軸ケーブルで分配するシステムをいい、一般には維持管理のために加入者による組合を構成している。
電子申請（電子申請・届出）	従来の紙によって行われている申請・届出などの手続を、家庭・事務室からパソコンによりインターネットを経由して電子的に行うこと。
電子メール（メール）： e-mail	メッセージを電氣的な符号により伝達する通信手段で、近年はインターネットや携帯電話によるものがほとんどを占める。
<b>ハ行</b>	
ハザードマップ	自然災害の危険度を地図上に表したもので、地域における災害による被害を予測し、その被害範囲を地図化している。予測される災害の発生地点、被害の拡大範囲及び被害程度、避難経路、避難場所などを図示して、災害に対する備えの強化、住民の災害時の避難や危険回避などの自主的な行動への支援を目的としている。
光ファイバ網 ： Optical Fiber Network	光信号を通す通信ケーブルである光ファイバにより構築されたネットワーク。従来の電話線などのメタルケーブルと比べて極めて大容量であり、信号が減衰しにくい特性がある。
ブロードバンド（ネットワーク）：	高速インターネットアクセス※1 及び超高速インターネットアクセス※2 を可能とする加入者系ネットワークを意味し、「高速・大容量通信

Broadband (Network)	<p>が可能」、「常時接続」、「双方向性」という一般的特性を有している。  (次世代ブロードバンド構想 2010 より) 総務省では FTTH、ADSL、ケーブルインターネット等のいずれのブロードバンド・サービスも全く利用できない世帯が存在する地域を「ブロードバンド・ゼロ地域」と称している。</p> <p>※1 音楽データ等をスムーズにダウンロードできる通信速度をいい、各種の定義では 1.5Mbps 前後とされている。</p> <p>※2 目安として 30Mbps～100Mbps の通信速度を持ち、精密な大容量映像データでもスムーズにダウンロードできるもの。(※1・※2 とも e-Japan 戦略より)</p>
ポータルサイト : Portal Site	<p>ポータルとは「玄関」を意味し、インターネットのウェブ (www) にアクセスする時に、入り口となるウェブサイト。検索エンジンやリンク集などを中心として、ニュースや株価などの情報提供サービス、ブラウザから利用できる Web メールサービス、電子掲示板など、様々なサービスを無料で提供することにより、利用者の増加を図り、広告や電子商取引仲介サービスなどで収入を得ている。</p>
マ行	
無線ブロードバンド	<p>FTTH や ADSL などのような有線通信でなく、無線通信 (電波) を通信路として利用するブロードバンドで、WiMAX や無線 LAN により実現される。</p>
メッシュ型無線 LAN (Local Area Network)	<p>無線 LAN は主に 2.4GHz 帯/5GHz 帯の電波を使って構成するネットワークで、一般に複数のユーザーに対して基地局 (アクセスポイント) は単一であるが、メッシュ型は広いエリアに設置した複数のアクセスポイントが互いに無線でデータをやり取りする技術で、広い範囲を簡単に少ない費用で接続することができる。</p>
ラ行	
ロードマップ (Road Map)	<p>計画の進行管理に際して、目標に向かって関係者が共有する大まかなスケジュールの全体像。</p>